

史料1 ①⑥ 平野屋定七家出致残道具書付一件

※斜字は朱書き(後日加筆したものか)

① 乍恐口上

御池通六丁目河内屋平兵衛

病氣二付代 市兵衛

一私借屋平野屋定七当年三拾八歳、同女房たき当年式拾三歳二相成候者、当七月晦日暮方罷出立帰りに申候二付、先月四日家出御断奉申上候処、三十日見合被為仰付奉畏候、然ル処、今日三拾一日目相成候得共、未立帰りに申二付、乍恐此段奉申上候、尤残し道具共別紙帳面是又乍恐奉差上候、已上

文化七年午九月四日

代市兵衛印

御奉行様

右之通相違無御座候二付、乍恐奥印仕候、已上

年寄 土佐屋喜兵衛印

②

御池通六丁目河内屋平兵衛借屋

平野屋定七家出跡残道具諸色付

文化七年午九月

一私借屋平野屋定七当年三拾八歳、同女房たき当年式拾三歳二相成候者、当七月晦日夕方二罷出立帰りに申候二付、先月四日家出御断奉申上候処、三十日見合被為仰付奉畏候、然ル処、今日三十一日目二相成候得共、未立帰りに申候二付、残し道具乍恐左ニ奉申上候

一 膳棚 壺

内 箸箱 壺

まな板 壺

鉢 壺

茶吞茶碗 壺

茶横茶碗 壺人前

茶わん 壺人前

猪口 壺

壺合升 壺

茶柄杓 壺

膳 四膳

土台盃 壺組

茶口 壺

拾式点

一 仏壇 壺本

但し台共

内二

掛ケ物 式幅

花立 壺

線香立 壺

〆三点

一 神棚 壺

内二 神造徳リ式ツ

一走り廻り 一式

一 水瓶 壺

一 摺鉢 壺

一 釣瓶 壺

一 手桶 壺

一三ツ竈 壹

一鍋 壹

一釜 壹

一飯櫃 壹

一行燈 壹本

一荒神社 壹

一棚板 三枚

一畳 三貼

一老間敷鴨居 壹四

但し柱壹本二有 壹挺

一小千木 壹挺

拾八点

右之通相違無御座候、以上

但右兩人共諸掛り合一切無御座候

文化七年九月四日 御池通六丁目

河内屋平兵衛

病氣二付代

市兵衛印

前書之通最初相改候処、相違無御座候二付、奥印仕候、已上

御奉行様 年寄 土佐屋喜兵衛印

右帳面二別紙ノ口上書相添掛り御番所御当番様江差出候之処、皆扣

居候様被為仰付、無程御呼出之上右残し道具御預ヶ被為成候、諸証

文仕罷帰候事

③

御池通六丁目

河内屋平兵衛

并 右町年寄

右之者共明廿四日五ツ時可罷出者也

午十一月廿三日西番所

右之通御差紙奉請候二付、左之通裏書仕候事

御表書之通奉畏候、已上 御池通六丁目町代恵七印

④ 乍恐口上

御池通六丁目年寄

病氣二付月行司 伊丹屋勘兵衛

一私丁内河内屋平兵衛并年寄被為御召成奉畏候、

然ル処、平兵衛病氣ニ御座候二付、代人召連罷出

申候二付、乍恐此段御断奉申上候、以上

文化七年十一月廿四日

平兵衛 代市兵衛

月行司 伊丹屋勘兵衛

御奉行様

右之名前中差出物代部屋持参り、御池通六丁目罷出候段相届ヶ候処、

右名前中物代部屋□□留り扣居候様申扣居候処、重而御呼出二付、目

安方御役所へ罷出候処、御調之上残道具欠所ニ御取上ヶ御払二付、右

品之内丁内払之分小紙ニ其段被仰付候事

⑤

小紙之写

壹 平野屋定七残道具 御池通六丁目

拾八点

廿五朝六ツ持参 内三ツ竈壹点丁内払

御池通六丁目

但シ此紙左之書付并代錢共目安方御役所差上候代錢も御預り札付候事

一何 何町

代判□□

⑥ 乍恐口上

一 御池通六丁目河内屋平兵衛借屋平野屋走七儀、先達而家出仕候二付、残道具持参仕候様被為仰付奉畏候、尤残道具拾八点之内

一 三ツ竈 壺

右之品売拂候様被為仰付、則代錢貳百文二年寄立会売拂申候間、右代錢并残拾七点とも乍恐奉差上候、以上

文化七年十一月廿五日 御池通六丁目

河内屋平兵衛 病氣二付代 市兵衛印

右之通残道具□品最初立会相改候節不相替聊相違之儀無御座候二付、奥印仕候、以上

年寄 土佐屋喜兵衛印

御奉行様

此書付并前書之小紙代錢共目安方御役所へ差下候、右又増錢被為仰付、都合三百文二而相納濟候事、尤荒道具之欠分ハ留又置、小道具之分ハ御前へ候事

史料2 ①⑦

丁内日向屋藤吉借屋柴屋新助、家内四人残し置家出仕候二付、御訴奉申上候節扣

①

天保五年十月三日家出  
丁内日向屋藤吉借屋芝や新助家内四人残置家出仕候二付御訴奉申上候節扣

西様御掛り 御池通六丁目

② 乍恐口上

一私借屋柴屋新助当年廿七歳ニ相成、働渡世之ものニ御座候処、妹たつ当年廿式歳、同とら当年十八才、同八重当年十四歳、同母せい当年四拾七才、四人家内相暮し罷有候处、当月三日夕七ツ時頃罷出立歸り不申候二付、心当り方々相尋候得共行衛相知れ不申故、乍恐家出御断奉申上候、何卒失御帳面江御記被為成候ハ、難有奉存候、以上

但諸掛り合一切無御座候

天保五年年  
十月六日

御池通六丁目

日向屋藤吉

年寄□□二付

月行司

淡路屋藤兵衛

御 三十日見合被為仰付候事

③ 乍恐口上

御池通六丁目日向屋藤吉

一私借屋柴屋新助当年廿七歳二相成、働渡世之ものニ御座候処、妹たつ当年廿式才、同とら当年十八歳、同八重当年十四歳、母せい当年四十七才、四人家内相暮し罷有候処、家内四人残し置、右新助老人先月参日夕七ツ時頃罷出立帰り不申故、同六日其段御断奉申上候処、三十日見合被為仰付奉畏候、然ル処、今月三十一日目ニ相成候得共、未行衛相知れ不申候ニ付、乍恐別紙残し道具書付奉申上候、以上

藤吉

天保五年年

十一月六日

家主年寄ニ付

月行司 淡路屋藤兵衛

御 立紙ニ而為相認、前書之通別段帳面□□相認□差上候事

④ 半紙□ニ而此通上紙相認ル

御池通六丁目日向屋藤吉借屋

柴屋新助家出残し道具附

⑤ 乍恐口上

御池通六丁目 日向屋藤吉

一私借屋柴屋新助当年廿七歳二相成、働渡世之者ニ御座候処、妹たつ当年廿式歳、同とら当年十八歳、同八重当年十四歳、母せい当年四十七歳、四人家内相暮し罷有候処、家内四人残置、右新助老人先月参日夕七ツ時頃罷出立帰不申故、同六日其段御断奉申上候処、三十日見合被為仰付罷有候、然ル処、今日三十一日目ニ相成候得共、未行衛相知れ不申候ニ付、乍恐残し道具左ニ書付御断奉申上候

- 一 壺 四疊半 一箱 式ッ
- 一 障子 三枚 一つい立 壺ッ

御

- 一 一ふすま 壺枚 一飯台 式ッ
- 一 一針差 式ッ 一箱火鉢 壺ッ
- 一 一たばこ盆 壺ッ 一三ツ竈 壺ッ

但火入共

- 一 一釜 壺ッ 一茶棚 壺ッ
- 一 一はしり 壺ッ 一水口 式ッ
- 一 一棚板 壺枚 一桶 壺ッ
- 一 一手桶 壺ッ 一つるべ 壺ッ
- 一 一打ばん 壺ッ 一飯ひつ 壺ッ
- 一 一茶漬茶碗 四膳 一膳 式膳
- 一 一蒲団大小 三膳 一からかさ 壺本
- 一 一ひかさ 壺本 一火はし 壺膳
- 一 一土ひん 壺ッ 一鉢 式ッ
- 一 一神棚 壺ッ 一酌 壺本
- 一 一酌子 式本 一土鍋 壺ッ
- 一 一火吹竹 壺本 一庖丁 壺挺
- 一 一まな板 壺ッ 一行燈 壺ッ
- 一 一火打箱 壺ッ

三拾七点

右之通相違無御座候ニ付、乍恐奉差上候、以上

当时諸掛り合無御座候

天保五年年

藤吉

十一月六日

右書面之残し道具色品、最初立会相改候節、聊相違之儀無御座候ニ付、乍恐奥印仕候、以上

年寄家主ニ付 月行司 淡路屋藤兵衛

⑥ 乍恐口上

御池通六丁目

日向屋藤吉借屋

柴屋新助

母 せい

病氣二付代 平兵衛

一私倅新助儀、家内四人残置、先月三日夕七ツ時頃家出仕候二付、同六日家主方家出御断奉申上候処、三十日見合被為仰付、今月三十一日目二御座候処、家主并丁内方残道具書付奉差上候由承知仕候、然ル処、私義便りニ可仕倅新助行衛相知れ不申、外ニ可立寄親類等も無御座候、途方暮罷有候、当時私儀病氣ニ御座候間、甚難渋仕渴命ニおよひ候間、何卒御慈悲を以、右残し道具親江被為下置度御願奉申上候、御憐愍之上御聞届被為成候ハ、広太之御慈悲難有奉存候、已上

天保五年年

十一月六日

せい

代平兵衛

右之通奉願上候二付、乍恐奥印仕、何卒右せい奉願上候通、残し道具被為下置候ハ、難有奉存候、以上

家主 日向屋藤吉

御 右書付差出候処、□扣居候様被仰渡無程□□相成被為下置候間、御礼奉申□□被仰渡候事

⑦ 乍恐書付を以御礼奉申上候

御池通六丁目

日向屋藤吉かしや

柴屋新助

母 せい

病氣二付代平兵衛

一私倅先月三日夕七ツ時頃家出仕立帰り不申候二付、同六日家主丁内方残し道具書上候様子承り申候、私便りニ可仕新助行衛相知れ不申、私義病氣ニ而難渋仕候二付、右残し道具被為下置度奉願上候処、御聞届被為成、道具被為下置、御憐愍之程莫加至極難有奉存候二付、乍恐書付を以御礼奉申上候、以上

天保五年年

十一月六日

せい

代平兵衛

右せい奉願上候通残道具被為下置□□乍恐御礼奉申上候、以上

家主 日向屋藤吉

御 右書付奉差上相済候事

史料3 ①⑥ 杉野屋文蔵儀家出仕諸掛り合有之御断奉申上候一件

① 乍恐口上

一私借屋杉野屋文蔵儀、当未三拾四歳、同女房まつ同三十七歳、子辰次郎同拾壹歳、同娘たね同八歳、ハ四人家内相暮し、宿屋渡世之者御座候処、先月廿七日夜家内不残罷出立帰り不申、心当り方々相尋候得とも行方相知れ不申、乍恐家出御断奉願上候、尤右文蔵諸掛り合御座候二付、乍恐左ニ奉申上候

二月十三日願

安治川上式丁目

一 預ヶ銀出入

井筒屋嘉兵衛支配かしや

願人 日野屋清兵衛

相手丁内 右 文蔵

此出入当時訴状中ニ御座候処、目安方御役所様へ御断奉申上候処、三十日御尋被為仰付候二付、乍恐此段御断奉申上候、右之通掛り合御座候、此外一切諸掛り合無御座候二付、乍恐此段

御断奉申上候、已上

弘化四未年

御池通六丁目

三月朔日

年寄 日向屋藤九郎

月行司

御 御当番所様へ御断奉申上候処、三十日見合被為仰付候

② 乍恐口上

一安治川上式丁目并筒屋嘉兵衛支配借屋日野屋清兵衛、丁内日向屋藤九郎かしや杉野屋文蔵相手取、預ヶ銀出入先月十三日奉願上候二付、当時訴状中二御座候、然ル処、右文蔵儀、家内不残先月廿七日夜罷出立歸り不申候二付、乍恐願人申合此段御断奉申上候、已上

弘化四未年

御池通六丁目

三月朔日

年寄 日向屋藤九郎

願人 日野屋清兵衛

御 目安方御断奉申上候処、三十日御尋被為仰付候、御請証文差上候

□□被為仰付候事

③ 奉差上御受証文之事

一安治川上式丁目并筒屋嘉兵衛支配借屋日野屋清兵衛、丁内日向屋藤九郎借屋杉野屋文蔵相手取、預ヶ銀出入先月十三日奉願上、当時訴状中二御座候処、先月廿七日夜家出仕候二付、三十日御尋被為仰付奉畏候、依之御受証文如件

弘化四未年

御池通六丁目

三月朔日

年寄 日向屋藤九郎

御奉行所

④ 乍恐口上

一安治川上式丁目并筒屋嘉兵衛支配借屋日野屋清兵衛、丁内日向屋藤九郎借屋杉野屋文蔵相手取、預ヶ銀出入当 一月十三日奉願上候二付、

訴状中二御座候処、右文蔵義当 一月廿七日夜家内不残家出仕候二付、先月願候願人申合、其段御断奉申上候処、三十日御尋被為仰付奉畏候処、今日三十一日目二相成候共、今行衛相知れ不申候二付、乍恐此段御断奉申上候、已上

弘化四未年

御池通六丁目

四月朔日

年寄 日向屋藤九郎

西月番方

願人 日野屋清兵衛

御

⑤ 乍恐口上

一安治川上式丁目并筒屋嘉兵衛支配借屋日野屋清兵衛、丁内日向屋藤九郎かしや杉野屋文蔵相手取、預ヶ銀出入当 二月十三日奉願上、訴状中二御座候処、右文蔵儀当 二月廿七日夜家出仕候二付、其段先月朔日御断奉申上候処、三十日御尋被為仰付奉畏、今日三十一日二相成候得共、立歸り不申候二付、其段又々御断奉申上候処、過料錢五匁被為仰付奉畏、乍恐過料錢奉持參候二付、此段御断奉申上候、已上

弘化四未年

御池通六丁目

四月朔日

年寄 日向屋藤九郎

御

⑥ 乍恐口上

一私かしや杉野屋文蔵儀、当未三拾四歳二相成、同女房まつ同三拾七歳、子辰次郎同十壹歳、同娘たね同八歳、四人家内相暮し、宿屋渡世之もの二御座候処、当 二月廿七日夜家内不残罷出、立歸り不申候二付、其段先月朔日御断奉申上候処、三十日見合被為仰付奉畏候処、今日三十一日目二相成候得共立歸り不申、依之乍恐此段御断奉申上候、尤残し道具等一切無御座候二付、是又御断奉申上候、尤右文蔵儀左之通掛り合御座候二付、乍恐奉申上候

二月十三日願

安治川上式丁目

一 預ヶ銀出入

井筒屋嘉兵衛支配かしや  
願人 日野屋清兵衛  
相手 丁内右 文蔵

此出入当時訴状中ニ御座候処、□□□方御□□所へ御断奉申上候処、二十日御尋被為仰付、今日三十一日目ニ相成候得共、立歸り不申段、又々御断奉申上候□過料錢五匁被為仰付候二付、乍恐此段御断奉申上候

右之通掛り合御座候、此外□諸掛り合等一切無御座候二付、乍恐此段御断奉申上候、已上

弘化四未年

御池通六丁目

四月朔日

年寄 日向屋藤九郎

右藤九郎年寄儀二付

月行司 いせ屋嘉兵衛

ひがし当御番所  
御

史料4 ①②

明石屋清五郎家内の者残し置家出仕候付、御断奉申上候一件

① 乍恐口上

一私借屋明石屋清五郎と申当亥五拾四才、同女房くま三拾八才、べ家内式人相暮し、働渡世之者ニ御座候処、当月朔日家内之者残し置、右清五郎老人家出仕、同十三日其段御断奉申上候処、三十日見合被為仰付奉畏候、尤右清五郎儀、懸り合奉請罷在候二付、其段御断奉申上候処、成行度毎相断可申様被為仰付、左ニ奉申上候

当八月七日願

一 届ヶ金不渡出入

願人 清兵衛町和泉屋利兵衛借屋  
紀伊国屋武兵衛  
相手 丁内右清五郎

右出入之儀は、当八月八日当御吟味方御役所様ニ而御糺ニ相成

候上、追々御日延中御座候処、右清五郎家出仕候二付、当月十一日其段御断奉申上候処、五日御尋被仰付、今日御切日ニ相成候得共、行衛相知不申候二付、御断奉申上候処、今日五五日御尋被為 仰付候

右清五郎儀、立売堀西之町塩飽屋孫三郎方松平阿波守様御領分阿州板野郡別宮浦金毘羅丸熊吉并大工木津川町河内屋庄右衛門借屋阿波屋平兵衛・船宿丁内右清五郎右三人相手取、船賃銀滞出入去戌十月十八日被願上、当時御呼登せ中ニ御座候処、右清五郎儀家出仕候二付、当月十二日其段当遠国方御役所様御断奉申上候処、三十日御尋被為仰付候

右之通ニ御座候二付、乍恐其段御断奉申上候

嘉永四亥年

御池通六丁目

九月十六日

家主 阿波屋定助

病氣二付代政治郎<sup>㊤</sup>

年寄 日向屋藤九郎<sup>㊦</sup>

② 乍恐書付を以御礼奉申上候

一私夫清五郎儀、先月朔日家出仕、立歸り不申候二付、同十三日所者方家出御断奉申上候処、三十日見合被為 仰付、今日御切日ニ相成候二付、所之者方残し道具書上候様子承り申候、然ル処、私義便りニ可仕夫清五郎行衛相知不申、其上病氣ニ而難渋仕候二付、残し道具被為下置度奉願上候処、御聞届被為 成下、残し道具被為下置、御憐愍之程冥加至極難有奉存候二付、乍恐書付を以此段御礼奉申上候、已上

嘉永四亥年

十月十四日

御池通六丁目

阿波屋定介かしや

明石屋清五郎

女房くま

病氣二付代

右くま奉願候通、残し道具被為下置難有奉存候  
二付、乍恐御礼奉申上候、已上  
家主 阿波屋定助  
年寄 日向屋藤九郎

③ 乍恐書付を以御礼奉申上候

一私夫清五郎先月朔日家出仕、立歸り不申候二付、同十三日所之者  
家出御断奉申上候処、二十日見日被為仰付、今日御切日相成候二付、  
所之者残し道具書上候様子承り申候、然ル処、私儀便り不可仕夫  
清五郎行衛相知れ不申、其上病氣二而難洪仕候二付、残し道具共被  
為下置度奉願上候処、御聞届被為成下、残し道具被為下置、御憐愍  
之程冥加至極難有奉存候二付、乍恐書付を以此段御礼奉申上候、已  
上

嘉永四亥年  
十月十四日

御池通六丁目

阿波屋定助かしや

明石屋清五郎

女房くま

病氣二付代嘉三郎<sup>㊦</sup>

右くま奉願候通、残し道具被

為下置難有奉存候二付、乍恐

御礼奉申上候、已上

家主 阿波屋定助

病氣二付代政治郎<sup>㊦</sup>

年寄 日向屋藤九郎<sup>㊦</sup>

御奉行様

④ 乍恐口上

一清兵衛町和泉屋利兵衛借屋紀伊国屋武兵衛方丁内阿波屋定助借屋明  
石屋清五郎相手取、届ヶ金不渡し出入先月七日被願上、同八日御召  
出し之上御礼二相成、追々御日延奉願上候処、右清五郎当月朔日夜  
五ツ時頃、家内之者残し置、右清五郎老人家出仕、立歸り不申候二  
付、乍恐願人申合、其段御断奉申上候、已上

御西

嘉永四亥年  
九月六日

御池通六丁目

年寄 日向屋藤九郎

願人 紀伊国屋武兵衛

⑤ 乍恐口上

一立壳堀西之町塩飽屋孫三郎方松平阿波守様御領分阿州板野郡別宮浦  
金毘丸熊吉并二大工木津川町河内屋庄右衛門かしや阿波屋平右衛門、  
船宿・町内阿波屋定介かしや明石屋清五郎、右三人相手取、船賃銀  
出入去戌十月十八日被願上、其後町内明石屋清五郎御召出之上、右  
之趣被仰付、当時御呼登せ中二御座候処、町内清五郎当月朔日家出  
仕、立歸り不申候二付、乍恐此段願人申合、御断奉申上候、已上

但清兵衛町和泉屋利兵衛借屋紀伊国屋武兵衛方町内右清五郎相  
手取、届ヶ金不渡し出入先月七日被願上、同八日御召出之上御  
礼二相成、当時御日延中二御座候  
嘉永四亥年  
九月十二日

御池通六丁目

年寄 日向屋藤九郎

願人 塩屋孫三郎

御西

⑥ 乍恐口上

一私借屋明石屋清五郎と申当亥五十八才、同女房くま三拾八才、<sup>㊦</sup>武  
人相暮し、働渡世之者二御座候処、当月朔日家内之者残し置、右清  
五郎老人家出仕、立歸り不申、心当之方々相尋候得共、行衛相知レ  
不申候二付、乍恐家出御断奉申上候、尤右清五郎掛り合御座候二付、  
左二奉申上候

当八月七日願

一 届ヶ金不渡出入

願人 清兵衛町和泉屋利兵衛かしや



紀伊国屋武兵衛

相手 丁内右清五郎

右出入、八月八日当御吟味方御役所様ニ而御糺ニ相成、当時御日延中ニ御座候処、昨日御断奉申上候処、五日御尋被仰付候

去戌十月十八日願

一 船賃銀出入

願人 立売堀西之町塩飽屋孫三郎

相手 丁内船宿右清五郎

并相手式人

右出入当時御呼登せ中ニ御座候、然ル処、昨日御日奉申上候処、三十日御尋被仰付候

右之通式口掛り合御座候、此外一切無御座候ニ付、乍恐此段御断奉申上候、已上

嘉永四亥年

九月十三日

御池通六丁目

家主 阿波屋定助

病氣ニ付代政治郎

年寄 日向屋藤九郎

御西

⑦ 差上申御請証文之事

一立売堀西之町塩飽屋孫三郎方松平阿波守様御領分阿州板野郡金毘羅丸熊吉并丁内阿波屋定助借屋明石屋清五郎相手取、船賃銀滞出入去戌十月十八日奉願上、当時御呼登せ中ニ御座候処、右清五郎家出仕、行衛相知れ不申段御断奉申上候処、三十日御尋被為仰付奉畏候、仍而如件

嘉永四亥年

九月十二日

御池通六丁目

家主 阿波屋定助

病氣ニ付代

年寄 病氣ニ付代

西

御

月行司 八萩屋弥兵衛

⑧ 乍恐口上

一清兵衛町和泉屋利兵衛借屋紀伊国屋武兵衛方丁内阿波屋定助かしや明石屋清五郎相手取、届ケ金不渡し出入先月七日被願上、同八日御召出之上御糺ニ相成、追々御日延中、当月朔日家出仕、同十一日其段御断奉申上候処、五日御尋被為仰付奉畏候、然ル処、今日御切日相成候得共、尔今行衛相知レ不申候ニ付、乍恐此段御断奉申上候、已上

但丁内相手清五郎儀、立売堀西之町塩飽屋孫三郎方松平阿波守様御領分阿州板野郡別宮浦金毘羅丸熊吉并二大工木津川町河内屋庄右衛門借屋阿波屋平右衛門・船宿丁内右清五郎、右三人相手取、船賃銀滞出入、去戌十月十八日被願上、当時御呼登せ中ニ御座候処、右家出仕候ニ付、当月十二日其段遠国方御役所様江御断奉申上候処、三十日御尋被為 仰候、此外諸掛り合等一切無御座候、已上

嘉永四亥年

九月十六日

御池通六丁目

年寄 日向屋藤九郎

御西

⑨ 乍恐口上

一立売堀西之町塩飽屋孫三郎方松平阿波守様御領分阿州板野郡別宮浦之金毘羅丸熊吉并二大工木津川町河内屋庄右衛門借屋阿波屋平右衛門・船宿町内阿波屋定助借屋明石屋清五郎、右三人相手取、船賃銀滞出入去戌十月十八日被願上、其段町内明石屋清五郎御召出之上、右之趣被 仰付、御呼登せ中ニ御座候処、町内清五郎先月朔日家出仕、同十二日其段御断奉申上候処、三十日御尋被仰付奉畏候、然ル処、今日御切日ニ相成候得共、尔今行衛相知れ不申候ニ付、乍恐其段御断奉申上候、已上

但清兵衛町和泉屋利兵衛借屋紀伊国屋武兵衛方町内右清五郎相手取、届ケ金不渡し出入当八月七日被願上、同八日御召出之上

御西

御糺二相成、御日延中二御座候処、右家出仕候二付、同九月十日当御吟味方御役所様江御断奉申上候処、右日付方五日御尋両度、十日尋両度被仰付、当時御尋中二御座候  
嘉永四亥年  
十月十二日

御池通六丁目

年寄病氣二付

月行司 八萩屋弥兵衛

⑩ 乍恐口上

一私借屋明石屋清五郎と申当亥五拾四才二相成、同女房くま三拾八歳二相成、式人相暮し、働渡世之者二御座候処、先月朔日家内之者残し置、右清五郎老人家出仕、同十三日其段御断奉申候処、三十日見合被為仰付奉畏、則今日御切日相成候得共、立歸り不申候二付、乍恐此段御断奉申上候、已上  
尤残し道具御座候二付、別紙帳面ヲ以御断奉申上候、已上  
但諸掛り合等御座候二付、左二奉申上候、已上

当八月七日願

一 届ヶ金不渡し出入

願人 清兵衛町和泉屋利兵衛支配かしや

紀伊国屋武兵衛

相手 丁内右清五郎

右出入之儀者、当八月七日当御吟味方御役所様ニ而御糺二相成候上、追々御日延中二御座候処、右清五郎家出仕候二付、先月十一日其段御断奉申上候処、右同日方五日尋両度、十日尋両度被仰付、当時御尋中二御座候

去戌十月十八日願

一 船賃銀滞出入

願人 立売堀西之町塩飽屋孫三郎

相手 丁内船宿右清五郎

御西

并二相手式人  
右出入之儀は、去戌十月十八日東遠国方御役所様ニおゐて御召出之上、当時御呼登せ中二御座候処、右清五郎儀家出仕候二付、先月十二日当遠国方御役所様へ其段御断奉申上候処、三十日御尋被仰付候処、御切日相成候得共、行衛相知れ不申候二付、其段御断奉申上候処、御浮置被仰付候

右之通式口掛り合御座候二付、此段御断奉申上候、尤此外諸掛り合等一切無御座候、已上

嘉永四亥年

十月十四日

御池通六丁目

家主 阿波屋定助

病氣二付代政治郎

年寄 日向屋藤九郎

⑪ 御池通六丁目阿波屋定助借屋  
明石屋清五郎残し道具附

⑫ 乍恐口上

一私借屋明石屋清五郎と申当亥年五拾八才二相成、同女房くま三拾八才二相成、式人相暮し罷有候処、家内老人残し置、右清五郎老人先月朔日家出仕、同十三日其段御断奉申上候処、三十日見合被為仰付奉畏候、然ル処、今日御切日二相成候得共、未立歸り不申候二付、乍恐残し道具左二書附御断奉申上候、已上

一 畳 三帖 一 障子 壹枚

一 三ツ竈 一 はしり 壹ツ

一 茶びん風呂一ツ 一 行燈 壹ツ

一 神棚 壹ツ 一 茶椀 三ツ

一 膳 三枚 一 桶 貳ツ

一庖丁 壹ツ 一まな板壹ツ  
拾貳点

右之通相違無御座候二付、乍恐奉差上候、已上

嘉永四亥年  
十月十四日

御池通六丁目

阿波屋定助

病氣二付代政治郎

⑬

乍恐口上

御池通六丁目

阿波屋定助借屋

明石屋清五郎

女房くま

病氣二付代

一私夫清五郎儀、私残し置先月朔日家出仕候二付、其段同八日所之者方御断奉申上候処、三十日見合被為仰付、今日御切日二相成候処、所之者方残し道具書付奉差上候由承知仕候、然ル処、私儀便ニ可仕夫清五郎行衛相知れ不申、外ニ可立寄親類等も無御座、途方ニ暮罷有、当時私儀病氣ニ御座候間、甚難渋仕渴命ニおよひ、何卒御慈悲を以残し道具私江被為下置度、乍恐奉願上候、御憐愍之上御聞届被為成下候ハ、御慈悲難有仕合奉存候、已上

嘉永四亥年

十月十四日

くま

病氣二付代

右之通奉願上候二付、奥印仕候、何卒右くま奉願上候通残し道具被為下置候ハ、難有奉存候、已上

家主阿波屋定助

病氣二付代

年寄日向屋藤九郎

御

⑭ 当子閏二月十三日、五日尋式ケ度、十日尋式ケ度、三十日尋五ケ度切日二付、右日限ニ西御吟味方御役所様江御断奉申上候処、過料錢三貫文被召上、其上永御尋被仰付、請証文御印形御取被遊候、右ニ而相濟候二付、同御遠国方御役所様へ、右同日右成行落着相片付候趣御断奉申上候処、御聞濟ニ相成候、然ル処、同二月十三日、残り居候女房家出仕候二付、右御断奉申上候書付左之通

乍恐家出御断

一私借屋明石屋清五郎と申当子五拾九才ニ相成、同女房くまニ拾九才、式人相暮し、働渡世之者ニ御座候処、去亥九月朔日家内之者残し置、右清五郎老人家出、同九月十四日其段御断奉申上候処、三十日見合被為仰付、同十月十四日御切日ニ相成候得共、立歸り不申候二付、御断奉申上候処、懸り合奉請有之御尋中ニ付、懸り合成行相片付次第相断可申様被仰付御座候、然ル処、先達而奉申上之候残し道具持參ニ而女房くま当月十三日家出仕、心当り相尋ね候得共、行衛相知候二付、乍恐此段御断奉申上候

嘉永五子年

閏二月十六日

御池通六丁目

家主 阿波屋定介

家主病氣二付代政次郎

年寄 日向屋藤九郎

御 西御当番所様へ御断奉申上候処、三十日見合被為仰付候

⑮ 乍恐口上

一私借屋明石屋清五郎と申当子五拾九才ニ相成、同女房くまニ拾九才、式人相暮、働渡世任者ニ御座候処、去亥九月朔日家内之者残し置、右清五郎老人家出仕、同月十四日其段御断奉申上候処、三十日見合被仰付、御切日ニ相成候得共、立歸り不申候二付、残し道具奉書上候処、右清五郎掛り合請奉有之御尋中ニ付、掛り合成行相片付次第相断可申様被仰付御座候、然ル処、其節奉書上有之候残し道具持參ニ而女房くま先月十三日家出仕、行衛相知れ不申候二付、其段御断奉申上候処、三十日見合被為 仰付奉畏候、則今日御切日ニ相成候

得共、立歸り不申候二付、乍恐此段御断奉申上候、以上

嘉永五子年

御池通六丁目

三月十七日

阿波屋定助

病氣二付代政治郎印

年寄 日向屋藤九郎印

御奉行様

⑯ 乍恐口上

一私借屋明石屋清五郎と申当子五拾九才二相成、同女房くま三拾九才、  
式人相暮し、働渡世仕候者二御座候処、去亥九月朔日家内之者残  
し置、右清五郎老人家出仕、同月十四日其段御断奉申上候処、三十  
日見合被仰付、御切日相成候得共、立歸り不申候二付、家出跡残道  
具有之候二付、奉書上候処、其節女房くま儀、右残し道具貫請度趣  
御願奉申上候処、右清五郎掛り合奉請御尋中二付、掛り合奉行相片  
付次第相断可申様被仰付、残し道具之儀も、其節上二而被下置候趣  
御願奉申上候候、然ル処、右残し道具持參二而、女房くま先月十  
三日家出仕、同十六日其段御断奉願申上候処、三十日見合被為仰付  
奉畏候、則今日御切日二相成候得共、立歸り不申候二付、乍恐此段  
御断奉申上候、尤右清五郎儀此掛り合左二奉申上候

去亥八月七日願  
一届ヶ金不渡し出入

願人 清兵衛町和泉屋利兵衛借屋

相手 紀伊国屋武兵衛

丁内右清五郎

右出入之儀は、同八月八日当御吟味方御役所様二而御札二相成候上、  
追々御日延中二御座候処、右清五郎家出仕候二付、御断奉申上候処、  
追々日限を以御尋之上、当子閏一月十二日、過料三貫目被召上、永  
御尋被為仰付候

去々戌年十月十八日願

一船賃銀滞出入

立売堀西之町塩飽屋孫三郎

右相手 丁内船宿右清五郎、并二外相手式人

右出入之儀は、東遠国方御役所様二おゐて御召出之上、當時御呼登  
せ中二御座候処、右清五郎儀家出仕候二付、当遠国方御役所様へ御  
断奉申上候処、三十日御尋被為仰付候上御浮置二相叶、当御吟味方  
御役所様懸合奉行取片付御切日候御聞濟二御座候  
右之通二御座候間、此外役所御切書付候、以上

嘉永五子年三月十八日

御池通六丁目

家主阿波屋定介

年寄日向屋藤九郎

右之通二御座候、此外諸掛り合等一切無御座候間、乍恐此段御断奉  
申上候以上

嘉永五子年  
三月十八日

御池通六丁目  
家主 阿波屋定助

病氣二付代喜三郎印

年寄 日向屋藤九郎印

御奉行様

⑰ 乍恐口上

一私借屋明石屋清五郎と申当子五拾九才二相成、同女房三拾九才二、  
式人相暮し、働渡世之者二御座候処、去亥九月朔日家内之者残し  
置、右清五郎老人家出仕、右同月十三日其段御断奉申上候、三十日  
見合被為仰付、御切日二相成候得共、立歸り不申、尤残し道具御座  
候二付、別紙帳面御断奉申上候御座候間、是又御断奉申  
上候処、右夫々懸合奉行相片付次第相断可申様被為仰付候、左三奉  
申上

去亥八月七日願  
一 届ヶ金不渡し出入

願人 清兵衛町和泉屋利兵衛借屋

阿波屋武兵衛

相手 丁内右清五郎  
右出入之儀は、同八月八日当御吟味方御役所様ニ而御糺ニ相成候上、追々御日延中御座候処、右清五郎家出仕候ニ付、御断奉申上候処、追々日限を以御尋之上、当子閏一月十二日過料錢三貫文被為仰付候上、永御尋被仰付候

去戌十月十八日

一 船賃銀滞出入

願人 立売堀西之町塩飽屋孫三郎

相手 丁内船宿右清五郎

右出入之儀は、去々戌年十月十八日東御遠国方御役所様ニおゐて御召出之上、御呼登せ中に御座候処、右清五郎家出仕候付、当御延中□□御断奉申上候処、三十日御尋被仰付儀、□御役所ニ被仰付呉候様当御□□御役所様懸り合奉行相片付□□□御聞濟相成候

右之通御座候付、□此段□□□□  
右之通

但右清五郎女房くま儀、□家出仕、行方相知レ不申候、然ル処、三十日見合御日切候節、残し道具御座候付、相改可申積りニ而□右住居罷越候処、□変罷居候親類之者、当時町内ニ而は無宿之者罷有残し道具等  
尤右家出跡ニ親類之者之由ニ而罷居候ニ付、女房くま何方江罷越候哉相尋候処、阿州表江罷越候様申之候得共、暁といし候義は不相分ら、当時無宿之者有之候而は大井ニ難渋仕候間、此者早々罷出、残し道具等相渡し可申様段々申之候得共、不聞入之段住居いたし候ニ付奉申上候

⑱

乍恐口上

一私借屋明石屋清五郎と申当子五拾九才ニ相成、同女房くま三拾九才、  
家内式人相暮、働渡世仕候者ニ御座候処、去亥九月朔日家内之者残し置、右清五郎老人家出仕、同月十三日其段御断奉申上候処、三十日見合被仰付、御切日ニ相成候得共、立帰り不申候ニ付、家出跡

残道具有之候ニ付、奉書上候処、其節女房くま儀、右残道具貫請度趣御願奉申上候処、右清五郎掛り合奉請御尋中ニ付、掛り合奉行相片付次第相断可申様被仰付候、然ル処、右残し道具持参ニ而、女房くま先月十三日家出仕、同十六日其段御断奉申上候処、三十日見合被為、仰付奉畏候、則今日御切日ニ相成候得共、立帰り不申候ニ付、乍恐此段御断奉申上候、尤右清五郎義懸り合左ニ奉申上候

⑲ 乍恐家出御断

子

一私借屋明石屋清五郎と申当子五拾八才ニ相成、同女房くま三拾九才、  
家内式人相暮、働渡世仕候者ニ御座候処、去亥九月朔日家内之者残し置、  
右清五郎老人家出仕、立帰り不申候ニ付、同十月十三日其段御断奉申上候処、懸り合有之右清五郎御尋中ニ付、懸り合奉行相片付候上ニ而相断可申様被仰付御座候、然ル処、先達而奉書上有之八家出跡残し道具持参ニ而、当月十三日女房くま家出仕、具相尋候へ共、行衛不相知候付、乍恐此段御断奉申上候  
□□□□

⑳ 乍恐口上

一私借屋明石屋清五郎と申当子五拾九才ニ相成、同女房くま三拾九才、  
家内式人相暮、働渡世仕候者ニ御座候処、去亥九月朔日家内之者残し置、右清五郎老人家出仕、同月十三日其段御断奉申上候処、三十日見合被為仰付、同十月十四日御切日ニ相成候得共、立帰り不申、  
尤家出跡残し道具有之候ニ付、奉書上候処其節、女房くま儀右残し道具貫請度趣御願奉申上候処、右清五郎掛り合奉請御尋中ニ付、掛り合奉行相片付次第相断可申様被為、仰付、夫迄御浮置被仰付御座候、然ル処、右残し道具持参ニ而、女房くま先月十三日家出仕、同十六日其段御断奉申上候処、三十日見合被為、仰付奉畏候、則今日御切日ニ相成候得共、立帰り不申候ニ付、乍恐此段御断奉申上候、尤右清五郎義、懸り合左ニ奉申上候

〔出典はすべて大阪市立中央図書館所蔵小林家文書〕